

(様式第4号)

第6回上田右岸地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田右岸地域協議会
2 日時	令和5年9月25日 午後1時30分から3時30分まで
3 会場	西部公民館 第5学習室他
4 出席者	天田委員、上原委員、永本委員、小川委員、金井委員、小林正人委員、小林みゆき委員、駒崎委員、塩入委員、清水悟委員、清水万貴委員、竹内委員、橋詰委員、増田委員、宮下委員、柳澤委員
5 市側出席者	【事務局】木嶋西部地域振興政策幹、横澤豊殿地域自治センター長、馬場豊殿地域振興政策幹、竹花地域内分権推進担当係長、近藤地域内分権推進担当主査、唐澤地域内分権推進担当主査、腰原地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事 【都市計画課】山浦都市計画課長補佐兼調査計画担当係長、竹内調査計画担当主査、東城調査計画担当主任 【交通政策課】横沢交通政策課長、市川交通政策課長補佐兼交通政策担当係長、一本鎗交通政策担当主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年9月28日

協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項

(1)上田市都市計画マスタープラン及び上田市立地適正化計画の改定について

都市計画課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)今年の春から上田市の位置指定基準が改訂されたと聞いている。令和5年度になってから2本程度しか位置指定の許可が得られていない中で、都市計画マスタープランと連動して進める必要性が生じてしまうのか。

(都市計画課)良好な街並みを作っていきたいという面では、位置指定道路も将来的には市道として引き取るものが多くなっている。市の都市施設として維持管理を進めていく上で必要なものとして、基準が厳しくなった。災害に対応するため、住民が快適に暮らすため等、将来に対する負担がなるべくなくなるよう基準が厳しくなっている。

(委員)今までの位置指定基準で10年間、管理責任が個人や法人にあったが、寄付を受け取っていただける期間の短縮等の再検討はいただけないか。

(都市計画課)担当課(管理課)に、そのような話をさせていただく。

(委員)市に寄付を受け取っていただく前に、道路を所有する企業が廃業して、管理者の居ない位置指定道路が各所に残っているのが実態であるため、対応をお願いしたい。

(都市計画課)開発行為として作っていると、私道という形で放置されずに、最初から市道として管理ができる。できるだけ解消できるように考えていく。

(委員)上田中央地域都市づくり方針図の中で、観光エリアの区分で城跡公園と国分寺史跡公園の2か所のみが該当となっている。柳町の街並みや、中央商店街など、表現の工夫が必要なのではないか。

(都市計画課)中心市街地は都市機能集積拠点として一括りにしてある。これが観光なのか、交流なのか難しいところである。小さな〇等になってしまうかもしれないが、表現を検討したい。

(委員)地域別構想(案)の概要【上田西部地域】について、上塩尻、下塩尻のほとんどが、浸水想定区域に指定されている。基本目標にもう少し防災などの文言を入れた方がよいのではないか。課題としては交通や自然より、防災の方に少し重きを置いた方がよいと感じる。

(都市計画課)防災は⑫で少しだけ書いてあるが、令和元年東日本台風時この地域で水害が起きているので、もう少し記載をしたい。

(委員)西部公民館はまちづくり活動拠点に該当するのではないか。稲倉の棚田は、地域外からもたくさんの方がいらっやっているので、地域交流エリアや、観光の表記をするのはどうか。地域の他団体ともこのような場を設けながら改良して行ってほしい。

資料 6 ページでは上田地域と丸子地域の居住誘導区域だけが表記されているが、実際はもっとたくさんあるのか。

(都市計画課)居住誘導区域として設定するのは2か所だけであり、それぞれの集落は地域の拠点という形で位置付けている。

(委員)真田地域や武石地域、塩田地域など居住誘導区域として指定されていないところは、住んではいけないところなのか。と捉えられてしまう気がする。各地域の集落の中心地などの表現を考えていただきたい。

(都市計画課)図面の中に各地域の生活複合拠点として位置付けた地域や、まちづくり活動エリアとして位置付けた地域もある。従来から人の住んでいるところは維持をしていこうというのが、この計画の重要な部分である。

(委員)国道18号上田バイパスが完成すると、大型施設の出店計画もあるかと思うが、将来的に用途の変更などの考えはあるか。

(都市計画課)何かしらの経済的活動の可能性を秘めた地域になってくる。上沖地区に対しても、これから動きがあると聞いている。土地利用の調整を市の中では政策企画課や商工課、農業政策課、都市計画課で協議し、効率的な土地利用をしていくことになる。

(委員)空き家、空き地の有効利用について、行政で積極的に携わっていくのか。または持ち主に何らかの支援をしていく形になるのか。

(都市計画課)空き家バンク制度があるため、積極的に進め、住環境を空き家だらけにならないよう、対策を取っていききたい。

(委員)アクアプラザ上田や上田終末処理場の周辺について記載がある。現在、上田市でごみ処理場建設の計画があるが、ここには載せられないのか。

(都市計画課)生活環境影響評価を行っている最中で、結果を地域の皆さんにお知らせして、判断を仰いでいく段階であるため、検討中という意味合いでこのような表現にした。

もう少しトーンを落とした方がよいという意見があれば、修正することも可能である。

(委員)この施設に限らず、他地域に市で計画しているものがあつた場合でも、この計画には具体的には載せないのか。

(都市計画課)既に決定しているものに対しては表記していく。

(委員)それぞれのまちづくり協議会でも計画を検討していると思うので、まちづくり協議会にも一度話をしてもらつた方がよいと感じる。ぜひ検討していただきたい。

(2)上田市地域公共交通計画の策定について

交通政策課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)バスロケーションシステムの有効活用及び運行情報のオープンデータ化について、いつ頃、どのように行う予定か。

(交通政策課) TicketQR を使うことで、バス、鉄道がどの位置にあるのかが分かる状態になっているが、バス経路、ダイヤをスマートフォン上で見られるものは無い状態である。バスロケーションシステムと、運行情報のオープンデータ化の連携を図っていく考えであり、今年度、県の支援を受けながら整備を進めており、早ければ令和6年度に導入が可能になってくるのではないかと。

(委員)第3分科会でも地域交通に関して調査研究をしている。路線の接続が上手くできておらず、使用機会が減っている。時間はかかるかもしれないが、それを踏まえて検討していただきたい。

パブリックコメントを予定しているということだが、12月に方針を出すのに間に合うのか心配である。

(交通政策課)マスタープラン的なもので大枠を示した計画で策定はするが、関連する個々の取組については、地域によって事情も様々だと思うので、交通政策課としてもできる限り協力できる形で、情報交換等に取り組んでいきたい。

令和4年度に策定できればよかったが、県でも地域交通計画を策定検討中で、令和4年度策定予定だったが令和5年度に変更されたこともあり、市も足並みを揃える形になった。

国からは、計画年度が令和5年度からになっているので、年内には策定するよう助言を受けている。

(委員)現在 TicketQR を使えるのがバスと上田電鉄だと思うが、TicketQR のキャンペーンで商店などでも使われていたが、その後買い物で使う機会はほとんど見られない。乗り物だけでは、普及率の面からも使いづらいと感じる。PayPayなどの普及率の高いキャッシュレス決済の使用予定はないのか。

(交通政策課) TicketQR 自体が公共交通に使うものとして開発いただいたもので、現在は鉄道、バス、タクシーで使えるようになっている。商工関係の取組の消費喚起応援事業の実施にあたっては、商品券の印刷はコストが高く、PayPay は手数料がかかることもあり、手間賃のかからない公共交通で使っている Ticket QR を有効活用することになった経過がある。現時点では店舗の買い物で Ticket QR を利用できるように開発はされていない。公共交通だけだと利用率は上がらないので、還元率を高くする等の対応を視野に入れながら利便性が上がるよう取り組んでいきたい。

(委員) 目標を達成するために取り組む事業と実施スケジュールの中で、高齢者の外出支援制度の導入検討とあるが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

(交通政策課) 運転免許証を返納された方に 1 万円分のタクシー利用補助券を交付しているが、1 人 1 回 1 万円分だけでは運転免許証返納のインセンティブにはならないという意見もいただいている。高齢者の移動支援については、高齢者介護課とも連携しながら、どんな制度がよいのか検討を進めていきたい。

(委員) 高齢者の中で市県民税減免世帯があると思うが、その方に対する特別な対策は考えているか。

(交通政策課) 高齢者全体に対しての対策を検討しており、市県民税減免世帯に絞っての検討はしていない。

(委員) TicketQR やタクシー利用補助券ではなく、完全に無料にすることはできないか。

(交通政策課) 平成 25 年 10 月から運賃低減バスに取り組んでおり、利用者が増えて収益が上がれば事業者も利益が得られるが、黒字にはなっておらず、市から負担金を補填している状況である。運賃低減バスの見直しと合わせて検討していきたい。

(委員) デマンド交通運行の維持、確保に向けた改善はどのようなものがあるのか。

(交通政策課) 市内ではデマンド交通として、武石地域のスマイル号、今年の 10 月 2 日に丸子デマンド交通の運行が始まる。丸子デマンド交通については開始後に課題を寄せていただき、ニーズに合ったものに組み上げていく予定である。

武石地域は合併以降デマンド交通を行っているが、輸送人員が減っている。デマンド交通であれば輸送人員が増えると考えられているが、予約が面倒、乗り合いが嫌など、なかなか利用が伸びていない。解決するためにはどのような運行方法がよいのか、具体的に検討していく。

(委員) デマンド交通もボランティア的な形が多く、維持に苦労されていると話を聞く。金銭面よりも、使いやすさの面での行き詰まりが大きいのかと感じる。市としての改善を図るのか、協力体制を市民に委ねるのか、どう考えているのか。

(交通政策課) 丸子地域、武石地域については、これまでの路線バスや循環バスを止めてデマンド交通へかじを切る方向で切り替えてきた経過がある。上田市の地域においては上田駅を起点に路線バスが運行しており、加えてデマンド交通を入れていく考えは今のところない。さらに公的な資金を投入するのは難しいので、現状ある公共交通へつ

なぐ手段として地域の方々が担っていただくことは、非常にありがたい。計画の中にも記載させていただくが、すぐに資金的支援ができるかは申し上げられないが、連携を図っていきたい。

当課とすると、交通事業者がいるため、法律に基づかないどのような手段に対しても補助金を交付することは現状難しいと考えている。高齢者福祉の視点から補助金制度の検討も始まっている。情報交換をしながら進めていきたい。

(3)分科会に分かれて調査・研究

上田右岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

【第1分科会：教育・福祉・子育てについて】

調査研究テーマについて協議

事務局から、これまでの意見を集約した意見書のたたき台を提示し、以下の内容について説明

○移動支援の取組

- ・初期導入経費の補助率について
- ・運営経費への補助について

○市の子育て支援施策

- ・子どもの居場所について
- ・CAP 事業について
- ・こどもまんなか応援サポーター宣言について

以下、委員からの主な意見

- ・そこへ行けば街中を移動することができるターミナルのようなものがあると便利である。
- ・昼間のバス停を見ると、利用している人がほとんど居ない。
- ・畑を持っている人は免許証の返納がしづらい。

【第2分科会：公共施設・事業について】

調査研究テーマについて協議

意見書作成のための、意見集約

(市営住宅について)

- ・市営住宅がセーフティーネットの最後の砦となっているため、県同様に入居の際の連帯保証人を無くした方がよい。
- ・安くても良いので、高齢者が入居しやすい建築費で建替えてほしい。
- ・「上田市都市計画マスタープラン」の「居住誘導地域」内の廃止予定の市営住宅(例：思川第二団地)は「居住誘導」を考えた跡地利用を考えてほしい。それぞれの計画の整合性を取ってほしい。
- ・市営住宅を建替えて綺麗にすれば、住宅需要はあると考える。
- ・家賃の減免は考えられないか。
- ・市営住宅は、高齢者福祉の面からも、施設の充実をお願いしたい。
- ・ターゲットを絞った施策方針をもって取り組んでほしい。

【第3分科会：建設・産業について】

調査研究テーマについて協議

以下、主な意見

- ・TicketQR で時刻表が出てこない。またバスのみのため電車も使えるようにして上田市版のアプリになるとよい。
- ・紙媒体の全バス路線が載ったものをアプリに組み込めば、今まで紙で見えていた人にも対応できるのではないか。
- ・実際のバス利用者と一緒にアプリの開発ができれば、より良いものができるのではないか。
- ・TicketQRのPRも必要ではないか。また、このデータを利用して、どのバス停で何人が下車したかなど、登録時に生年月日を登録すれば年代層もわかるので分析できる。
- ・中央公民館やひとまちげんき健康プラザうえだはバスで行きにくい。
- ・バスの利用促進の観点から、目的に合ったバスの路線の検討が必要である。例えば高齢者の方なら病院や公民館、市役所など公共的な施設を必ず経由する路線や、高校生なら学校の近くにバス停を設けるなど通学専用のようなものを作る。実例で、本当は上田千曲高校に行きたかったが、保護者は仕事があり車で送り迎え等できずバスの路線もなかったため、電車で通える小諸の学校や坂城の学校に進学した子がいる。
- ・高校進学時にバスの利便性が良ければ、その後も利用するのではないか。
- ・バスの運転手の確保は必須である。
- ・企業などでも社員に働きかけをお願いしたい。

4 事務連絡

【次回】第7回

日時:10月23日(月)午後1時30分～

場所:豊殿地域自治センター

5 閉会